

寒河江市学校施設整備計画改定（案）
及び寒河江市立新中学校施設整備基本構想（案）説明会 質疑応答

<p>会場：西部地区公民館 日時：令和7年3月8日（土）19時から20時30分 参加人数：14名 出席者：教育長 学校教育課長（兼）学校再編整備室長 学校再編整備室 室長補佐 学校再編整備室 係長 アジア航測</p>
<p>（発言者A） 参加者している方が少ないですよ。実際にどういう形で説明会があるということを周知したのか、若い人がいない。そういうことも含めて、どのような形でここで開かれるということを周知したのか。あるいは、PTA 役員を中心に参加していただけるように要請したのか、私の場合は子どもがいないから関係ないですが、実際、関係する方々から意見がとりまとめられると思うのですが、実際、こういう説明会があって、いろんな説明を聞くとあまりにも形式的で、ただ読んでいて、資料いただいてもわからない、早くてわからない。そういうことも含めて事前の準備として、こういうものを準備して、事前に提示して見られるようにする。それから、関係者とか、中学校に通っている方々とか、保護者の方とか、説明会ありますよと説明してなかったんじゃないかなと、この参加人数を見るとね。我々は高齢者なので、関係ないと言えば関係ないんですけども、だけども、関係する方が非常に少ないのでね。それと、説明があまりにも事務的で読んでということすら感じられない。私の意見です。どうしろということはないですが、意見です、感想です。</p>
<p>（学校教育課長） 今日の説明会につきましては、2月20日号の市報にあわせまして全戸回覧、同じタイミングで、保護者向けに、保護者に連絡するための「さくら連絡網」というのがありますが、それで全保護者には連絡しております。また、資料については、2月20日号の回覧にも書いてあったと思いますが、市ホームページに前もってアップしておりますので、周知もしたところです。最後に、3月5日号の市報にも説明会のご案内をしたところです。</p>
<p>（発言者A） 情報を流しただけでなくて、人を集める対策、そういうことも含めてやってもらえば、こんな少ない人数で、説明会をやった、やったとはならないのかなと。大きな問題なので、もう少し市民の人も参加できるような取り組み方をしていただきたいなと思いました。</p>
<p>（発言者B） いろいろ説明いただきまして、統合中学校の方向も決まったということで、大変ご苦労様です。今さらですが、統合にはあくまでも反対しております。そ</p>

の反対の理由の1つは、陵東、陵西学区のお子さんが通学に大きな負担がかかる。通学には、スクールバスの運行も令和7年度に考えられると思いますが、子どもたちの朝の体調は非常に微妙なところがあります。スクールバスに間に合わない日もあると思います。その場合にはどうしたらよいでしょうか。バスの中で子どもたちの微妙なトラブルがあると思います。学校に行けなくなるという子どももいると思います。バスの中、大人の方は運転手しかいません。スクールバスを運行するとすれば、子どものケアの面から、補助員の方も同行する形をとっていただきたい。いろんな理由で通学のできない、学校に行けない子どもも多くいると簡単に言われますけども、学校に行けないというのは、その子どもにとって一生の問題なんです。そのような子どもを寒河江市では、一人もださないという教育委員会の考え方をもっていただきたいと思います。

もう一つは、校舎は80年後までにというところですが、その後を考えると、今までの学校の例を見ますと、校舎はその用地では、新しく改築できないような状況があると思います。と言うのは、北側に校舎があって、南側がグラウンドというのがほとんどなんですね。そうすると新しい用地には、校舎は建てられない。北側がグラウンドになってしまうので。今回も同じよう敷地ではないかなと思います。用地の選定をせっかく決めていただいたが、まだ、納得しない部分があると考えております。

寒河江市役所の前には、「さがえっこをすくすく育むまち」と大きなスローガンが立っております。教育委員会のみなさんは毎日それを見ていただいて、頑張っって教育行政に務めていただいていると信じておりますが、寒河江市の子どもたちには、全員が寒河江市に育ってよかった、寒河江市の学校に通ってよかった、全員がみんなと一緒に卒業できてよかったと、誇れる学校生活を送らせてあげたいと思っています。他の都道府県や市や町からも寒河江市で子育てしたいと思わせるような、文科省指導の統廃合ではなく、全国に自慢できる寒河江市独自の子どもファーストの学校づくりをしていただきたいと強く思います。

いくつか質問させていただきたいのですが、学校施設を地域でも活用とありました。それは建設されることを前提に話をしておりますが、体育館、家庭科室、工作室、音楽室とかを利用できるとすれば、学校が閉鎖したあとに利用することになると思うので、安全面から考えれば別棟を考えなければならないのかなと思っています。そういったことを検討していただけるかどうか。

それから、高校との連携ということですが、具体的にどんなことを考えておられるのかどうか。簡単に中学校と高校が交流できるようなことは、中高一貫の学校であればできるけども、なかなかそうはできない。あるいは、寒河江高校に中学校を併設すればよかったんでしょけども、それも検討されていないということであれば、どういう形で中高連携を考えているのか。

それから、整備方針の中で生徒のメンタル面でのケアや生徒への丁寧な対応が可能な場所の確保とありますが、これは一番大事なことで、具体的にどういうふうに子どもたちに面と向かってケアできる体制がつくれるのか、具体的に教えていただきたい。明日も登校したい学校をつくるということで、そう

いうことを、具体的な考え方で教えていただけるとありがたいと思います。

(教育長)

ご質問ありがとうございます。スクールバスの運行につきましては、安全面の確保は大事なことです、十分に配慮してやっていきたいと思っています。

地域利用につきましては、今お話にありましたように校舎内を全部自由というのは、防犯上、安全対策上、無理だと思います。例えば、小、中学校の体育館等をスポ少やいろんな活動で貸し出しをしておりますが、今は体育館の施設だけだと思います。そのエリアに、例えば、この会議室のようなスペースをとりまして、地域の方が集まれる場所も体育館の貸し出しとあわせて行えるようにし、その時は、校舎は校舎で鍵がかかるような状態での活用を考えております。体育館もメインの体育館とサブの体育館を考えておりますが、例えば、多くの方が集まるようなことがあった場合には、そうしたサブの体育館で集会等ができるようなことも考えているところです。

中高連携につきましては、新聞報道でも市内の高校の生徒さんが、各種コンテストで入賞したなど、いろいろな活躍の様子が紹介されています。また、地元の地域を調べる活動なども高校でやっていますし、中学校でもやっています。そうしたことを一緒に探究的な学習としてやっていったりとか、あとは、例えば、神輿まつりで、今年度から、陵東中、陵南中、陵西中のそれぞれの中学校が神輿に参加しています。高校生は、寒河江工業さんが参加していますが、そうした活動なども一緒にできたりしたらいいかなと思っています。具体的にどういうことをやっていけるかについて、来年度、教育委員会や中学校、高校、地域の方、企業の方も入っていただいたの検討する会議を立ち上げて、いろいろご意見いただきながら、やっていきたいと思っています。

メンタル面でのケアでは、中学校ではなかなか学校には来られるが、教室で学習ができない状況のお子さんもいらっしゃいます。そのような子どもさんが勉強する場として、別の教室で学習している状況もあります。そうしたところの配置なども考慮しながら、子どもたちがそこでちょっと気持ちの休憩といえますか、そういったことができるということも含みながら、教室での学習へもつなげていきたいと考えています。

(発言者 B)

例えば、音楽室、家庭科室、地域の方がそこで集まって料理をする、あるいは、工作室でみんなが日曜日集まるとか、特別教室を別にして、学習する教室と離して設計されるといいのかなと考えております。

さきほど登校はできるけども、みんなと一緒に学習できないお子さんの話がありましたが、実際に学校に行けてないお子さんの方が多いいんじゃないですか。その子どもさん方をどういう風にするのか、そういったお子さんをつくらないようにするためにはどうしたらよいか、一番大事なことだと思います。

さきほど話しましたが、スクールバス運行されるのであれば、補助員の方を検討されるかどうか。

(教育長)

スクールバスの補助員等については、今ご意見いただきましたので、今後考

えて検討していきたいと思います。

おっしゃる通り学校に行けない子をださないというのが、基本だと思えます。そのために今学校で取り組んでもらっているのは、1つは、授業が「わかる」、「楽しい」という実感をもてるような授業を行ってほしいということです。一斉授業だと、なかなかそれに乗っていけない子どもさんもいますので、そうしたところでの学習内容、方法とかを検討し取り組んでもらっています。また、コロナの流行で学校行事が令和2年、3年、4年あたりは、中止せざるを得ないことが多くありました。いろいろな話し合い活動も、できない状況にありました。そういう状況を経て、改めて感じるのは、例えば、学級活動であったり、学年行事であったり、運動会などの学校行事の大事さです。中学生くらいの時期に、みんなで何か一つの目標に向かって一緒になって取り組む、そして、そこで達成感や満足感を感じるとか、そうした活動ができなかったのは、すごく大きいと思います。そこで、今、基本的に活動制限がないわけですから、学校で活動、いわゆる特別活動と呼んでおりますが、それを重視してほしいと昨年度からずっと話をしております。ある中学校では、今までだと学校研究というのは、授業そのものに関わる部分が主だったのですが、今年度は、いわゆる、昔で言います学級会活動、これをしっかりやっっていこうということで、取り組んでいます。今の若い先生方は、学級会活動をしたことがない人も多いので、その辺、ベテランの先生の助言も受けながら、学級の中でいろんな活動をして、話し合いをして決めていくということを取り入れています。自分たちで決める体験というのが、とても大事だと思えますので、そうした活動を多く取り入れてもらっています。

また、直接学校にというわけではないですが、「寒陵スクール」ということで、なかなか学校に行けないお子さんが通える場所を寒河江市で設置しております。現在は午前中のみ開設ですが、起立性調節障害とか、なかなか朝起きられない子どもさんもいらっしゃるの、そうした子どもさんにとって少しでも来やすくなるよう、今、予算の要求をしております。来年度4月からになります。午後も3時まで寒陵スクールを開くという計画をしているところです。

(発言者B)

午後は、すごくいいことだと思います。最初の質問の中で、スクールバスに乗れなかった子どもをどういう風にひろってもらえるか、質問したのですが、午後からひろってもらえるということですか。

大変失礼な言い方ですが、学校の先生が子どもとコミュニケーション取れない先生が非常に多いと聞いているのですが、さきほどの本当に素晴らしい話なのですが、実際に先生方はそういうレベルで子どもと対応してもらえるか、みんなの先生が対応してもらえるか、その辺を不安に思います。

(教育長)

例えば、朝、具合が悪いというお子さんについて、今でも学校で迎えに行ったりとかはできませんので、そのあたりは、保護者の方に送ってもらったりとか。

<p>(発言者 B)</p> <p>陵東、陵西の保護者は、すごい負担がかかるじゃないですか。</p>
<p>(教育長)</p> <p>基本的には、具合が悪いときには休むということだと思います。</p>
<p>(発言者 B)</p> <p>一回休んだらだめですよ。休ませない。近くだったらなんとか1校時遅れてもでられるじゃないですか。だけど、陵西の子どもは行けないですよ。自分で歩いていけますか。そこら辺をケアしてもらわないと、スクールバスもきびしいことあるじゃないですか。保護者の方は送っていけますか。</p>
<p>(教育長)</p> <p>そういったことについてはこれから検討もしていきますが、ただ、一人一人すべて対応するのはなかなか難しいと思います。</p>
<p>(発言者 B)</p> <p>いや、そうじゃなくて、陵南地区の方と陵東、陵西の人はそこでハンデがあるんです。東京一極集中化、我々問題にしていますが、まさに陵南地区は一極集中になって、陵東、陵西は、過疎化になる。そういうのを本当に考えているのか。そこをケアしないと子どもたち育たないですよ、人口が減りますよ。それを我々は東京一極集中を反対しているじゃないですか。山形もなんとかしろと言っているじゃないですか。地元の陵西、陵東がなんとかしろと、我々が言っているところです。統合反対というのは、そういう意味も含めて反対していますが、教育の考え方、すばらしいことがあります、地域をもっと考えていただきたい。</p>
<p>(教育長)</p> <p>ご意見は。</p>
<p>(発言者 B)</p> <p>ご意見ではなくて地域を守ってください。意見ではないです。</p>
<p>(教育長)</p> <p>ですので、当初の最初の計画から変更して、陵西学区にも小学校を1校残すというふうに計画を変更したところです。</p>
<p>(発言者 B)</p> <p>小学校ではなくて中学校です。</p>
<p>(教育長)</p> <p>中学校につきましては、これまでもずっと説明をさせていただきまして、やっぱり2校がいいというご意見もありますし、1校の方がいいというご意見もあったわけです。</p>
<p>(発言者 B)</p> <p>それは民主主義、それは数の論理ですよ。そっちの方が多から当然なるわけじゃないですか。そういう方が多いという言い方ではなくて、民主主義を教える学校の考え方ではないと思います。数の論理を押し付けて、我々を捨てるということはないと思います。地方だけなんで守るんですか。我々も守ってほしいです。通学できるような形をつくってほしい。</p>

<p>(教育長) 捨てるのかそういった。</p>
<p>(発言者 B) 通学できるように。</p>
<p>(発言者 C) 私も同じ考えなんです。今日は、中学校の話題ですが、聞くところによると小学校はね、中部小は学級、教室が足りない問題がでてくる。ところが、西部地区は生徒数が少なくて教室が余っているみたいなんです。なぜこんな問題がそもそもでてくるのかということなんです。地域対策、地域配慮が非常に必要だと思うのですが、お題目には書いてあるんですよ、書き物には、お経として書いてあるのですが、それがほとんど反映されていないような気がしてならない。私も今のことに関係して、感想も含めての意見なんです、この学校の統合問題は、一番最初はね、小学校の複式学級が是か非かという問題から始まったはずなんです。そして、蓋を開けてみたら、小学校の統合を話題に出したら、中学校の統合だと問題が変わって、そしたら今度、小学校の統合の中で醍醐小を残すと言っておきながら、醍醐小じゃなくて、高松小を残すと論点を変えた。今日お話を聞いたら、ほんとぶったまげたのは、三泉小と西根小の統合計画は、考え直します、場所も含めて考え直しますと。さらにもっとビックリしたのは、寒河江高等学校グラウンドを使わせてもらって、そして、統合中学校を考えます。次々と大きな問題をだしてきて、計画通りにどこで誰が進めているのか、だんだんわからなくなっていると思うんですけども、大丈夫なんでしょうか。これ県との調整はどの程度進めているのでしょうか。</p>
<p>(教育長) 県とも調整を進めておりまして、正式に要望書も提出している状況でございます。</p>
<p>(発言者 C) そしたらね、醍醐小を特別支援学校として残しますと説明されましたが、それは、県立の学校になるわけですよ。醍醐小学校はね。県の担当になるわけですよ。今までの議論の中では、小学校は、地域と非常に密接な関係があって、地域コミュニティの核として小学校はできるだけ残してもらいたいんだという意見もあったと思います。地域を存続させるために、地域を残すんだという話だったと思うんです。そうしたら、その代替案なり、代替機能なり、ということもあわせて考えていかなかったら、まちづくりだとか、地域をどうするのかとか、市全体をどうするのかとか、回答にならないじゃないですか。さらに、統合を議論したとき、中学校の統合を議論したときに、1校にしたときに不登校だとか、いじめだとか、ましてや、検討している間に一人自殺者がでたという問題が出ている中で、予防措置をどうするのか、対策をどうするのかという説明まで、しっかりしなかったら、これまで出てきた意見の中でどういう風になるかは、安心できるねって、理解したってならないんじゃないんですかね。ここをしっかりと進めてもらいたくないなと思っていますよ。統合を否定しているわけではない。この進め方なり、説明の仕方なり、何を議論してこういう風</p>

にしたから、こうなんですよと、しっかり市民に説明して進めてほしいんですよ。それがいきなり、こんな問題もでたから、あれはちょっと変更ですか、これはちょっといかがなものかなと思うんですよ、いかがですか。

(教育長)

説明をして進めていくのは当然だと思います。ですから、こうした説明会も開催しているところです。いじめや不登校の問題については、今だって学校があるわけですから、今も学校で当然対応しているわけで、それをより進めて行くということだと思います。新しい学校になるから、そういった教育の中身が大きく変わるということではないわけです。当然、いじめ問題であったり、不登校問題であったり、子どもたちをどう育てていくかということについては、今だって、この先だって、基本的に同じ方針でやっていくわけです。なお、不登校児童生徒に関して、出現率ということで千人あたり何人と、国や県でも出ていますが、それを学校毎に見ていった場合に、必ずしも大規模であるが故に出現率がどんどん高くなっていくということではございません。現在、それぞれの学校で、いろんな活動、小規模なら小規模でやりやすいところ、大規模なら大規模でやれるところ、お互いのいいところを伸ばしていくということが大事だと思います。今回、いろいろなご意見がありましたけども、中学校につきましては、1校にするということを進めてまいります。その中では、大規模校のメリットをよりいかして学校運営をしていくということが大事だと思います。

(発言者C)

それでね、小学校を統合したときに、小学校がなくなるという地域、地域コミュニティをどういう形で保全していくんですか。この対策がなかったら、まちづくりの基本ができないということになるんじゃないですか。コミュニティというのは説明の中にはたくさん出てくるのですが、その代替措置なり、代替機能なり、そういった部分をあわせて説明できなかったら、何を検討しているんだということになりませんか。

(みらい協働課長)

私のところでは、まちづくりを担っているセクションであります。今現在、寒河江の全域で、小学校単位で、みなさんも参加されている方もいらっしゃるんですが、まちづくり、計画づくりに資するために、地域のワークショップを開催しております。市内9地区で開催しております、住民の方からご参加いただいて、今後のまちづくり、計画をどういう風に作っていくかということで、みなさんからお知恵をお借りする、ご議論いただいて、どんな寒河江をつくっていくのかというのを検討いただいております。その中で、たしかに地域コミュニティをどうするのか、そういう風な話題も入っております。たしかに、今おっしゃったように、地域から小学校がなくなる、地域コミュニティが低下するのではないかとご懸念をもっている方が大勢いらっしゃいました。その中で、地域コミュニティを維持するためにどうするのか、あわせてお話をいただいているところであります。学校の整備の問題と地域コミュニティを一括で提案できればよかったのですが、なかなかタイミング的なもの

もございまして、一緒に提案できる状況にはございませんでした。あくまでもお話いただいて、ご意見を頂戴して、それらを踏まえて、このまちづくり、コミュニティの点も含めて、市でいろいろ計画していきたいと思っております。ワークショップの中で、こちらの方としまして、地域コミュニティをどう考えますかという視点も含めて、お話をさせていただいたところであります。ですので、そちらの方を今後まとめて、ご意見などもいただきながら、いただいたご意見を含めて、今後の計画づくりに資してまいりたいと思います。

(発言者)

それはね、パブリックコメントでも何度も、たくさん出てきたはずですよ。それに対して何にも答えていないんですよ。

(発言者 B)

パブリックコメントって何なんですかね。

(発言者 C)

何にも答えてないんですよ。それでパブリックコメントをやったという帳面消しなんですよ。それでこうやって進められるんですよ。結果的に見ていくと、西部地区切り捨てみたいになっていくんですよ。これで本当にいいんですか。行政の貧困さがでてくるような感じがしてならないんですよ。それをしっかり考えていただきたいんですよ。

(発言者 D)

基本的に賛成の立場から申しあげますが、今日、中学校施設整備基本構想の説明会なんですが、中学校だけについて、絞って言えば、これまでの学校の最大の欠点は、「場所がない」、「人がいない」ということです。やっぱり、かつては狭い部屋で、大人数を効率良くというような日本の教育制度があったわけですが、社会の変化が激しく、子どもたちも変わっている。そういう中で、場所がない、人がいない、おそらく先生方に負担がかかるのは当たり前で、子どもたちに目が届かなくなるのはあたり前とを感じるわけです。そこで、新中学校施設整備については、人と場所を十分配慮していただきたい。そこで、教育長さんの説明の中の要旨を見せていただくと、基本理念として、ふるさと寒河江を愛し、具体的に寒河江を愛し、ふるさとを誇りに思う、寒河江での自己実現、寒河江に関わり続ける、これは正直、中学校が独立してあるわけではない。すでに中学校にくるために、13年くらいかかっているわけですね。そことの関連がここからは見えない。結局、中学校、ある日突然、ふるさとを誇りに思うような情操教育をやらうとしても無理で、やっぱり、地域コミュニティという言葉がありますが、地域の幼児教育、大人の教育、保護者教育、これらも含めて、含めたものが大前提にあるんでしょけれども、ここからだけだと見えなくて、ここから中学校が始まってもいいのかなというような気がします。

それから、時間もあるでしょうから、発想の転換をしてほしいのと、下の方に、児童生徒・保護者・教職員の願いということで、教育委員会の願いでもあるのかどうか、教育委員会は違っていればありがたい。その一番最後の4つ、二番目、運動が思い切りできる体育館やゆったりできるベンチなどの設備、これは一緒にならないね、やっぱり体育館は、様々なことができる体育館、それ

から、大人数になればサブ体育館もちろんですけども、やっぱり第一、第二体育館を設置しながら、子どもたちが伸び伸びと運動できる場所づくりということで、ゆったりできるベンチは、もう1つ項目を起こして、学校全体の考え、捉え方ということで示してもらいたい。小学生なんか聞いてみると、ちょうど卒業式の時期なんです。卒業式の練習だね、悲しいねと聞くと、卒業式の練習は、寒くて、長くて、やんだ。あの体育館でね、卒業式の練習、何時間も座らせられていたら、子どもたちは大変、そういった意味で公会堂までいなくても、儀式とか、講演とか、それから映画観賞会とかそういった文化的な施設などを備えた新しい中学校ということで、ゆったりできるベンチなどと体育館と並列にしないでいただきたい。もう1つ項目を起こしてやっていただきたい。そうすることによって、様々な生徒に対応した場所の確保、そして、県費負担で足りないところは、市費負担で不登校気味の生徒には対応していくということで、もう少し、見直しと言いますか、吟味ですね、最初に申し上げたとおり、そこは基本的な立場は賛成の立場で申しあげておりますが、もう少し、時間がないのでこれでやめますが、発想の転換をしないと、西村山に誇る、県にほこる新中学校づくりにはならないんじゃないかなと。

それから、別紙の1で、小学校も含めた再編計画。わざわざね、今日、西部地区なのよ、ここ。西部地区。西部地区が、中学校の設置でも置き去りにされた感じがあるんだけど。さきほど、みらい協働課からあったけども、やっぱりまちづくりの質問があって当然だろうなと思います。まちづくりの観点、まったく見えてない。コストパフォーマンス的に中学校はあっちに持って行ったのに、まちづくりも大事なので、西部地区にはこんな風な施設とか、はっきりは議会通らないと言えないので、やっぱり見捨てられたのかなと、場所選定からから何から見てね、そう言った意味で寒河江の誇る長岡山を中心として、円周を書いていってまわりにぐるっと、いろんなまちづくりになるような考え方なども少しふれていただくと、いいのではないかなと。高松小の話、おそらく高松小を作ることを決定したのは失敗だったかなと思っています。というのは、今、白岩、高松、醍醐、そして中学校もこちらの方にこない、それから、将来的に文化施設、行政施設もこない。また、高松小作ったとたんに生徒減少に陥るだろうと。そういった意味で西部地区にくるときくらいは、設置計画を入れていただいて、高松地区にはそういった意味でも今検討している行政施設があり、検討を重ねているところですよというくらいの説明なかったら、これで終わりますが、あげればいっぱいありますが、大きく場所選定と高松小の整備計画、コミュニティづくりと、それから、中学校にある日突然くるのではなく、幼児教育から小学校を経て中学校にくるわけですから、そういった流れの中で、整備計画を、体育館などの発想なんかも含めて、もう少し文字の吟味やら考え方の転換をしないと、いろんなことで聞きたくなるんじゃないかなと。今、大事なことは、早くきちっと決めていくことです。こういうこと、こういうことと、これも非常に大事なことですけども、話し合いで時間をとってままずいわけですね。もう少し明確に、発想の転換をしながら、大都市でさえ崩壊の危機があるという時代ですから、生徒数が減少しておりますので、大人の人口が減っているわけですから、そういった意味でもなるべく急ぎながら、もう

少し見直しをしながら対応していただければありがたいなと。特に今日は、西部地区ですから、あえて申しますが、長岡山の裏側とか、高松駅の裏側とか、高松地区は本当に何も無い。そこら辺も何か決まりつつあることがあれば、さきほどあった、特別支援学校なども触れていただければ、ああそうかとなりますし、西部地区の説明会だと言うことでは、ご配慮いただきたいと思います。以上です。

(発言者 E)

私は、学校再編を考える市民の会というのを一緒にやって、署名を集めて、市の方に、市長さんとか教育長さんとかに申し上げてきました。私は、基本的に中学校は2校にすべきと考えております。今日は1校の説明ですが、そもそも論、おもとはみなさんから話のあった地域をどうしていくか。それから、一番大事なものは、寒河江市の子どもたち、将来を担う子どもたちが、教育長さんがおっしゃったように、自立して自分で考える能力、そして、地域を愛する子どもたちをつくっていくためには、やっぱり中学校は2校であるべきでないかなと思っています。パブリックコメント、私も出しまして、だいたい7割以上の方が、1校ではなく2校でと言っていた。教育長さんからも1校それから2校、デメリット、メリットありました。しかし、教育長さん、教委委員会の説明では、なぜ1校でないといけないのかという点で十分に納得できていないです。そういう点でも中途半端と言いますか、依然としてそういう想いがありますし、説明がなっていないということもありますし、地域との関連の問題でも、まだまだ課題があると思います。同時に、さきほどあったように、昨日の市議会では、新聞に載っておりましたが、中学生の中で不登校が73人もいるということにびっくりしました。30人学級ですと2クラスの方々が不登校。また、資料にもありましたが、発達障害の方が増えてきている。そして今日の資料にあるように、一人一人の、誰一人取り残さない安全で安心な教育環境という点であれば、より小規模と言いますか、中規模の学校、山形県の場合は、さんさんプランで33人以下、全国基準よりも少ない基準でやっている。それは一人一人の子どもたちに、先生が目をかけられる学級づくり、学校づくりをしようとする県からの考えだと思います。そういう点でも不登校とかいろんな問題を抱えている子が多い中で、より身近に、一人一人の成長を助けるべく、中学校は1校ではなく2校、そういう形がよいと思います。また、先生方も非常に大変だと思います。いろいろな子どもさんがいらっしゃる、保護者さんがいらっしゃるなかで、さきほどあった「ともに輝く学校」という点でも、保護者や教職員もウェルビーイング、先生方も本当によかったという、そういう環境をつくるうえでも、1000人の学校というのは、きっと東北で初めてじゃないかなと思いますし、1学年が10クラスですし、全校集会を1000人も集めてできるのか、私も経験がないわけですが、そういった点でも、もう一度、原点に戻って考えてほしいなど。一回決まってしまうと、そういう不安を私はまだもっていますし、まだ納得もしてないので、その点も十分配慮して、対策を考えていただきたいと思います。

(教育長)

不安を感じられている部分というのは、わかります。1校か2校かに関し

て、令和4年度から説明会等でもお話を伺って、こちらも説明させていただきました。そういった中で、パブリックコメントでは、2校案の方が多かったということもありました。ただ、1校案の方がいいというご意見もありました。

また、令和5年度、最終的に現計画を策定するときも説明会を開催して、アンケート等も書いていただいたんですけども、その中では、1校案に賛成というご意見が多かったわけです。そうしたことも総合的に考えて、今後の生徒数の推移等も考慮しまして、1校案ということで、用地を決めるということで進めさせてもらっているところです。さきほどのご意見にもありましたが、ある程度これからスピード感をもちながら進めていかなければならない状況もあると思います。例えば、中学校はだいたい50年くらい経っていて、いろいろなところの修繕が必要になってきています。寒河江市の場合は中学校を作って終わりではなくて、その後、小学校の統合等もあります。今後、寒河江小学校、寒河江中部小学校、柴橋小学校、南部小学校についても校舎が老朽化していく、児童数も減っていく中でどうしていくかということも検討していかなければならないということもあります。そこで、そうした将来的な展望ももちながら進めていかなければならないところもございます。ですので、中学校1校か2校かということにつきましては、教育委員会としては、1校として進めてまいるということでございます。

(発言者E)

本当に不安が解消できるのでしょうか。

(発言者F)

質問と意見なのですが、用地選定で西寒河江駅の近くだというのが一つの理由となっています。これは、生徒が左沢線とか路線バスを使うという想定をしているのか、それともまったく考えていないのか、全部スクールバスでやるのか。スクールバス、全国各地で運転手さんの確保が難しくなっている状況で大規模校になるとそれだけバスの運転手確保できるのかという心配もあると思います。検討はこれからなんでしょうけども、今の時点でまったく考えていないのか、検討しているのかをお聞きしたいと思います。仮に公共交通機関を使う可能性があるということであれば、西寒河江と羽前高松の間、Suica 使えないですね。Suica が使えるようになるとタッチしたときに親御さんに改札を通過したという連絡が行く仕組みなんかもありますので、そういったところは当然親御さんたちもほしいと思います。中学校が使わないとしても、寒河江高校の志願者の減少の問題もあると思います。選ばれる高校になるためには、Suica がないというのは、訴求力がないとなると思います。ますます選ばれなくなる。今、寒河江高校の半数ぐらいが西村山以外で、山形方面から来ている生徒が多いですので、選ばれるように、ホームの屋根ですとか、もちろんこれはJRの問題ですけども、JRに要望はしていると思います。単に要望するだけだと改善されないの、どうやったら設置してもらえるのか、戦略的に考えていくことが大事なのかなと思います。後半は意見になります。以上です。

(学校教育課長)

通学に関しましては、JR、路線バス等も選択の1つとして検討してまいりたいと思います。

(発言者C)

最後に要望、パブリックコメントの取扱いなり、説明しましたけども、これは最初の説明のときから、この問題については、こういう風に対応するんだということを、きちんと説明してほしいと、私は話していたと思うんです。でも、この紙でこの進め方というのは、意見の聞き方なりの話しかなくて、何をどう決めるのかというスケジュールは、一切提示されていないのですが、どう考えたらいいですか。それを早くしっかり示してほしい。どの時点で何を決めるのか。どういう風な事業をするとか。例えば、さっき出てきたいじめの問題とか不登校とか、PTAを入れて、具体的なものを決めていくんだと、それはきちんと説明の中で謳っていただきたいんですよ。そうすると不安やなんか、少なくなると思うんですよ。理解を余計に得られるようになると思うんですよ。そういう工夫をね、しっかりやっていただきたいんですよ。基本ですよ。そうじゃなくて思い付きで、これで何回か説明したからいいでしょみたいな。市議会議員に言ってもそんな話をしている、それはちょっと一生懸命やっている丁寧さに欠けるのではないかなと思いますので、よろしくお願いします。

(学校教育課長)

より詳しく書いていくように対応してまいります。